

第13回（平成24年度）課外研究奨励費伝達式

第13回（平成24年度）課外研究奨励費の伝達式が、平野俊夫総長、東島清理事・副学長、宮崎純一学生生活委員会委員長らの出席のもと、7月6日（金）に本部事務機構棟301会議室において行われました。

課外研究奨励費は、「学部学生の研究意識の向上」を目的とし、個人又はグループ単位の学生自身による正課以外の研究テーマを公募し、独創的かつ意欲的であると認められたテーマに対して授与されるものであり、今年度は18件の研究テーマの応募のうち9件が採択されました。

伝達式では、初めに宮崎委員長から選考経過について説明があり、続いて平野総長から受賞者に対して賞状授与と講話が行われました。その後、各受賞者から研究の抱負等が述べられ、終始和やかな雰囲気のなか終了しました。



〈今年度採択されたテーマ〉

1. 国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
2. 遺伝子工学による独創的な生物デバイスの設計および機能評価
3. 大阪府一須賀古墳群のフィールド調査による古墳時代地域史の解明と成果の社会発信
4. 大学ボランティアセンターの存在が学生のボランティア活動に与える影響ー 3.11 東日本大震災後の対応の比較からー
5. 国際社会における企業間紛争の解決アプローチについて
6. 中国人留学生の意識と大阪大学のブランド力形成に関する研究
7. 小型レーシングカーにおける車両動的特性の解析およびそれに基づく学生フォーミュラ車両の開発
8. NHK 大学ロボコン優勝を目指して
9. より必要出力の小さな無尾翼人力機を目指して

（学生部学務課）

難波啓一教授「恩賜賞・日本学士院賞」受賞

日本学士院は天皇后両陛下の行幸啓を仰いで第102回日本学士院賞の授賞式を6月4日（月）に挙行し、生命機能研究科の難波啓一教授が恩賜賞および日本学士院賞を受賞しました。日本学士院によるこの授賞制度は明治43年に創設され、学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して授賞が行われるものです。

難波啓一教授は生命を支える様々な生体超分子の動作のしくみを解明するため、X線回折法や電子顕微鏡による立体構造解析法で独自の技術開発を進め、タバコモザイクウイルス、細菌べん毛、筋肉のアクチン繊維など、以前は解析不可能と考えられた生体超分子の立体構造を世界に先駆けて原子レベルで解明。これらの超分子ナノマシンが工学技術をはるかにしのぐ精度や桁違いに小さなエネルギーでしなやかに動作するしくみを解明しました。また、低温電子顕微鏡の画像解析による超分子構造解析法を格段に進歩させ、以前は何年もの歳月を要した数万におよぶ電顕像の収集と解析を数日に縮めるといった画期的な高速化に成功。必要な試料も数ミリグラムから数マイクログラムへと減少させました。生命科学研究を大きく躍進させる、国際的に誇るべき独創性の高い研究成果であると評価されたものです。

授賞式前には、日本学士院にお迎えした天皇后両陛下に研究成果をご説明し、授賞式後には受賞者を宮中でのお茶会にお招きいただき、天皇后両陛下ならびに皇太子殿下、秋篠宮殿下、妃殿下や、宮内庁の方々と、食事をしながら懇談する機会がありました。

（生命機能研究科）

